



4/29 しゃべれないスタンダップコメディアン 白岩次郎&よしこ あなたもスタンダップコメディアンになれる! ワークショップ&ライブ

重度知的障害のある次郎さん(IQ18)は、話せる言葉が十語ほどしかありません。でもマイクの前に立つと、堂々と声を出します。お母さんのよしこさんがそれを「超訳」する。すると客席は、大爆笑に包まれます。「障害のある人を笑う」と聞くと、ためらいを感じるかもしれません。でも、お二人はコメディアンです。大いに笑っていいのです。そんなお2人を東京からお迎えして、ライブとワークショップを開催します。

<スタンダップコメディとは>

マイク一本で、自分や社会の経験を語る表現形式です。1950~60年代のアメリカで、抑圧されていた黒人の人々が、声を取り戻すために話芸を使ったことに始まります。自由と民主主義の表現とも言われ、マイノリティの声の表現でもあります。

<あなたもスタンダップコメディアンになれる! ワークショップ>

マイノリティであること、不利益をかぶることはネタの宝庫、コメディの財産! 日常的に凹むことが起こった時にこれはネタになるぞと書き留め。オチを掴んで立ち上がる。自分の不完全さを認めて、人の不完全さも許す。言いたいことが言える自分になるための技を、しらいわさんが伝授してくれます。ネガティブな出来事を皆のアイデアを出しあいながら、ポジティブなネタに変えて持って帰れます。

<よしこさんと次郎さんのこと>

よしこさんは大分県出身。ジャーナリスト養成の専門学校を経てフリーランスライターとして働き、稼いではアジアを一人旅する二十代を経て、26歳で結婚、27歳でアフリカで長女を出産。帰国後、次郎さんを出産する直前に離婚。介護福祉士として働きながら、三人の子どもをシングルマザーとして育ててきました。

次郎さんが知的障害と診断された後、社会や行政の冷たさにも何度も直面してきたといいます。コロナ禍、公的支援が軒並みストップして茫然としていたとき、ネットで「笑えない世界を笑おうとしている人たち」に出会い、スタンダップコメディの世界へ。

続けている理由は、二つ。お客さんにストレスを発散してもらうこと。そして、次郎さんのための舞台をつくること。

「楽しいことが大好きだから、次郎は次郎という仕事をしている」—よしこさんはそう言います。

<当日のプログラム>

11:00—13:00 ワークショップ

「自分のネガティブな経験を笑いにする」ことを一緒に体験します。うまくやる必要はありません。自分の物語の入口を、一緒に探しましょう。

14:00—16:00 しらいわよしこ・次郎

少ない言葉でも、次郎さんは自分の気持ちをしっかり表現し、語ってほしいこと・語ってほしくないことも、きちんと伝えます。そのやりとりが、自然と大爆笑を誘います。

昼スナは「すべての物語には語られる価値がある」と考えています。

講談ワークショップ、怪談ワークショップ、そしてスタンダップコメディ。エンターテインメントという「型」があることで、自分の物語を語ることを許され、助けられることがあります。

自分に合った方法で、自分のことを自分で語る。その機会を、一緒につくれたら嬉しいです。大いに笑って、帰ってください。

日時：2026年4月29日(水祝)11:00-13:00 ワークショップ／14:00 - 16:00 ライブ

場所：中洲昼スナ「役にたたなくてもいい場所」(福岡市博多区中洲2丁目7-5 第3タワービル2階 bar Day-Break)

参加費：ワークショップ(3,000円)

ライブ(チャージ1,000円+ドリンク+投げ銭)

お問い合わせ先：090-5476-2361

お申込みは右のQRコードよりお願いいたします。

